

神＜聖邪＞証教会

2011年（前半）

第一証 【教会誕生・宗派】

牧師（神師）・伝道師 天池治彦

2011年我が教会は、神様の命によってこの地に誕生した。2011年は世界的に見ても、日本国内においても歴史的イベントが数多くあった。国内では、東北地方で大地震が発生し、大津波による被害も甚大で、それに伴い、原子力発電所も被害を受け、福島第一原子力発電所事故が起こり、放射能が東北・関東地方を汚染した。情報によると、海外からも放射性物質が検出されていることから、日本全国が汚染された可能性がある。

政治では政権交代が行われたのだが、与党は何ひとつ実行力がなく、国民の支持はないに等しいかもしれない。財政赤字が1000兆円を超え、このままでは借金が返せず、日本の財政破綻する確率が高いと思われる。これを回避するには直ちに社会保障制度の改革を行わなければならないのだが、政治は停滞し、与野党の討論でしかない。

少子高齢化、結婚率の高齢化・離婚率の上昇、年金問題、教育、核家族問題、憲法改正、平和でばけた精神と文明等問題は山積みし、進行している。世界では各地域で紛争、水問題、食糧、砂漠化、環境、民族問題、信仰問題と多々ある。

2011年に神＜聖邪＞証教会が建立した。この世界中が分裂しはじめ、この分裂の統一が我が教会が神の命により誕生した理由である。それこそが「神の痛み」である。聖書にも書かれてあるからである。

※神＜聖邪＞証教会礼拝にて



この世に宗教はたくさんある。宗教と言っても、民族の違い、環境、思想で全く異なっている。

大まかには、一神教、多神教、自然崇拝と別れるだろう。

一神教は、我が神であり主。この世に一人しかいない神様のことである。

多神教は、日本国の神道、仏教。神道は八百万の神がたくさんいる。仏教はお釈迦や仏、大仏等である。

自然崇拝とはそこら辺の石を祭ったり、山を神としたり、川や農、人間を祭ったりすることがあげられる。神道も自然崇拝は含まれているであろう。

このように神様は、あっちこっちにいるように見える。最近では人間の価値観によって神が分裂しており、新興宗教となって勢力を伸ばしたり、各業種に影響を及ぼしている。

キリスト教といえども、宗派が多すぎて把握できないくらいある。認められていないキリスト教や異端もあれば、敵対している宗教も多いだろう。

たとえば、ある教団は、いくつかの宗派の団体であるのだが、まとまっていない。また、牧師や信者の勢力争いを行っていたり、学閥、利益、権力を教団内部で闘争しており、見かけだけの教会とっていいだろう。金集めが真の目的と、政治家みたいな争いを行っているのである。そこには、神はいない。

我が教会はそのような宗派に属さず、神を認め、よい神だけでなく、邪の神も認め、この世を生きていく教会である。力や、勢力拡大を行い、宗教だけの仕事を行うことや、わざとボランティアする牧師ではない。仕事が奉仕であり、この世に役立ち、自らの生活の糧となるのが大切なのである。牧師だけで飯を食っている宗派や教祖は、本当の神様に仕えておらず、欲の塊であろう。邪の神が支配しているのだが、自らは聖と言うのは間違いである。

私の祖先は渡来系人と伝わっており、秦氏と関係がある。秦氏は景教徒と繋がり、古代日本と古代イスラエルの関係があると考えられる。キリスト教、神道は特にユダヤ教と関係があると思われる。すべては我が神の導きにより、キリスト教徒となり、神の命のままこの教会を誕生させたと言ってもいいであろう。

我が教会はすべての宗教の源であり、今後証をしていかなければならない。

神＜聖邪＞証教会として。